

令和4年12月に着工した北海道消防学校の新校舎が完成し、令和6年7月29日に鈴木知事や約70名の来賓の方々に参列いただき、落成式を執り行いました。



○ 本校は、消防職員及び消防団員の育成を目的に、自治体消防が発足した昭和23年に、全国にさきがけて開校し、昭和40年には現在の江別市に移転してから、60年近い年月が経過し、これまでに本校に入学した学生は、延べ6万人を超えています。

○ 地域防災の要となる消防職・団員を育成するという重要な役割を担う本校においては、震災対応訓練や模擬消火訓練といった、実践的な訓練を行なうための施設を順次設置し、訓練施設の充実を図るとともに、消防の将来を担う学生の皆さんが、より快適な環境で、これまで以上に教育訓練に集中できるよう、設備を一新しました。



○ また、新校舎では、自家発電設備などを備え、緊急消防援助隊の拠点としても活用できるようにし、大規模災害等への対応を強化し、さらに、「ゼロカーボン北海道」の趣旨に沿い、空冷式エアコンやLED照明の導入や、屋上に太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーを活用するなど、新校舎は、道有施設で初めて、NearlyZEB（ニアリーゼブ）認証を取得しています。

○ このように、学生にも環境にも配慮した新たな学び舎において、全道から集う学生の皆さんが、消防人としての専門性を高め、道民の皆様を守る技術を磨かれるとともに、一緒に学ぶ仲間との絆を深め、大きく成長されることを願っています。

○ 北海道消防学校は、今後とも、本道の消防・救急の現場を支える消防職・団員の育成に取り組んでまいります。

テープカット



左から 花田北海道消防協会会長、後藤江別市長、鈴木北海道知事、
富原北海道議会議長、村井全国消防長会北海道支部支部長（札幌市消防局長）、
河端北海道消防学校校友会会長（旭川市消防長）

内覧会

完成した新校舎の特徴である

- 道有建築物で初めて取得した NearlyZEB 認証に関連した省エネルギーや創エネルギー関連設備
- 講義の効率化や学生の衛生上の観点から新設した、最大 150 名収容可能な大教室や、学生用の防火衣乾燥室
- 道産木材を用いた地域性を感じる内装

などを、参列頂いた皆様に実際に見ていただき、理解を深めていただきました。

